醫師の立場から見たる幼稚園と急性傳染病（承前）

醫學博士　島　信

七、麻　疹

麻疹は固有の發疹及粘膜の加答兒を特徴とする疾患であるが未だ其病原體は鮮明されて居ない。患者の血液、鼻腔、口腔及結膜の分泌物中に病原體の存在することは明である。病毒は非常に揮散性で人から人に容易に傳播し、其感染能力は前驅期から發疹期に於て最も著しく、發疹前五日位から既に傳染力がある。從て家庭に麻疹患者が出て發疹した時には同棲して居る他の未患同朋は既に傳染して居り潜伏期第五日に相當して居るのである。解熱後には傳染能力は速に消失するものである。

罹患年齢は二歳乃至五歳のものが最も多い。五ヶ月以内の乳兒は殆ど罹患しない。此れは胎内にて母血から貰た免疫物質があるのと初生兒期に於ては母乳を介し多少の免疫物質が攝取される爲めに免疫性になつて居るからである。然し此の被働免疫は五ヶ月位から段々無くなつて行き一方外からは供給されないので感染する樣になり一年前後

は最も免疫性のない時機卽ち抵抗力の最も弱い時機であるから罹患すると危險に陷り易いのである其後になると段々自然免疫性が體內に出來抵抗力が强くなる。十五歲以上になると罹患することは又稀である。此　は自然免疫性を得る爲め罹患しない事もあるが大多數のものは幼時に本病を罹患して免疫性になつて居る爲めである。一度本病に罹れば終生の免疫性を得るものであるが稀には再感染することがあ。

本病は何れの時季にも流行し得るが春秋が多く晩秋から冬を越し春先迄流行するのが普通である。一度流行があると罹患すべき人間は殆ど總て罹病　る爲め流行後一二年は罹患すべき人間少く三四年後になると又罹患し易き人間が出來て來る爲に流行が起るのである。從て麻疹三四年每に大流行が起るのである。

麻疹の全經過は次の如く四期に分つことが出來る。

(一)潛伏期。感染してから病狀を呈する迄の時期で十一日間で此間は傳染して居ても全く健康である。

(二)前驅期。此れは三日乃至四日で粘膜に加答兒症狀現はれ噴嚏、咳嗽、羞明を來し同時に體溫上昇し食慾減じ不機嫌になる。口腔粘膜に發疹しコプリック斑と稱し頰粘膜の臼齒に相對した所に小さな白い點が數箇發生し此の周圍は發赤した粘膜の狹い暈輪で圍繞されて居る。此　が麻疹の早期診斷に大切なものである。此れが認められなければ早期診斷は不可能で感冒との區別は全く出來ない。早期發疹と稱し顏面に境界不明の暗赤色の發疹が生じ一二日で消褪することがある。熱は三十八度前後のことが多く前驅期の終には一時下降する。

(三)發疹期。感染第十四日に至り皮膚に麻疹特有

の發疹が現はれる。一時解熱した體溫が再び上昇し三十九度時には四十一度迄も上昇し同時に發疹が起る。輕症では二日間で解熱するが時には四五日間高熱が續くことがある。發疹は帽針頭乃至豌豆大の紅斑で皮膚面から少し隆起して居り顏面及耳殼の前後に初發し頭部頸部軀幹四肢の順序で全身に蔓延し殊に顏面の中央鼻口唇頤部に密生する。初めは小なる獨立した丘疹であるが後には隣のものと融合して瀰蔓性潮紅の不規則な輪廓のものとなる。然し四肢のものは丘疹多くは孤立し融合することは少い。發疹は初めは鮮紅色だが後暗赤色に變ず。

皮疹の出現と共に前驅期に存在した粘膜の加答兒症狀は增惡し氣管枝加答兒の併發すること多く時には肺炎と併發し危險に陷ることがある。衰弱の甚しい小兒或は不攝生の爲め冷したりすると發疹の出方惡く或は一時發疹したものが急に消失し熱も高くならない樣なことがある。如此場合には氣管枝炎肺炎等强く所謂內攻して重篤となることが多い。從て熱高からずとも衰弱の度强きものは注意しなければならない。

(四)恢復期。發疹は出現したと同一の順序で褪色し甚だ小なる糠粃狀落屑を初め三日乃至七日で完了する。發疹期の終りに最高に達した體溫は分利狀又は換散狀に下降し同時に一般症狀良好となる。眼鼻口腔の炎症は速に消退するが喉頭及氣管枝の加答兒は徐々に輕快し嗄聲咳嗽喀痰は數日間持續するものである。

麻疹は順調に經過すれば四五日で殆ど全快するもので恐るべきものではないが非常に抵抗力を弱める疾患である爲め種々の合併症を起し易く危險に陷ることが屢々あるので油斷のならないものである。殊に屢々遭遇するものは中耳炎、肺炎口腔鼻腔の潰瘍等である。發疹後四日を經るも解熱し

ない場合には合併症あるものと考へて注意しなければならない。又麻疹と重要な關係のあるのは結核である。此れは麻疹の經過中に結核に對する防禦力が消失するからであつて、潜在性結核を活動せしめ又既にある肺結核を增惡させることが屢々あり麻疹に續發して粟粒結核の起ることが往々認められる。

豫防法として麻疹患者に接近せぬ樣にすることが尤も必要であるが前述の如く發疹前五日即ち麻疹の發病しない內或は麻疹の診斷が下されない內に既に傳染力があるのであるから此を早期に隔離し或は接近しない樣にすることは不可能で且つ傳染力の非常に强いものであるから豫防が困難で時々大流行が起るのである。麻疹患者に接した場合或は家族に麻疹患者が出來た場合には未患者殊に幼弱のものには豫疹することが必要で此れは出來るのである。即ち回復期患者の血液或は兩親の血液を注射すれば其時期と血液の量とによつて完全或は不完全に豫防することが出來るものである。從て虛弱兒或は結核のあるもの或は一年前後の幼兒は感染の機會があれば豫防注射を是非行ふべきである。

看護上注意すべきことは麻疹は一度は罹患するもので心配のないものであると油斷せず攝生に注意し殊に口腔の清潔に注意し氣管枝炎肺炎の豫防を忘らぬ樣にせねばならない。又回復期の油斷から肺炎或結核等の起ることがあるから少くとも解熱後一週間は入浴外出等はせず保養に注意することが肝要である。

八、猩紅熱

猩紅熱の病原體は未だ確定されたとは言へないが溶血性連鎖狀球菌の關係あることは確かである。傳染性は麻疹の如く甚大ではない。直接或は

間接に器具を介して傳染する。病原體の侵入所は扁桃腺及咽頭である。時には皮膚粘膜の損傷に續發する創傷性猩紅熱もある。

本病は發病第一日より傳染性有り。漸次減少し通常隔離期間を六週間とすれども落屑完了すれば六週以前に於ても隔離を解除してよい。季節は春秋に多く冬此に次ぎ夏季は少い。年齡は三年乃至六年に最も多く一年未滿及二十年以後は稀である。一度本病に罹れば終生の免疫を得再感することは殆どない。

本病の經過は次の三期に分つことが出來る。

(一)潛伏期。此は不定で傳染後二十四時間以內に發病することもあるが多くは三日乃至八日の潛伏期があつて此の間何等の病狀を發しない。

(二)發疹期。本病は麻疹の如く一定の前驅期なく突然發病し嘔吐咽頭痛等の症狀を起すと共に發熱發疹するものである。時には發熱咽頭痛ありて一二日の後に發疹することもある。發疹は特有で極く小さな鮮紅色の斑點で密生し一見境界劃然たらざる紅斑の樣に見ゆるが注意して見ると各小斑點の間に常皮を認め得る。たゞ顏面の發疹だけは融合して光輝ある鮮紅斑となる。發疹部に指壓を加へれば紅色消へて黃色となり次で又潮紅する。皮疹は通常頸部及軀幹に現はれ其後四肢に蔓延し二日後には殆ど全身に出現する。顏面に於ては口の周圍に現はれず基底を頸部にし頰を左右に見る口圍三角形の帶黃蒼白部が出來る。此れは猩紅熱に特有なことで麻疹其他との鑑別に役立つ所見である。關節の屈側に屢々小なる點狀出血を起すことがある。或は又毛囊の尖端に小水泡或は硬き滲潤の生ずることがある。發疹は第三乃至第五日より發生の順序に從て褪色し第二週の初めには全く消褪して次の落屑期に移る。

體溫は突然惡寒戰慄を以て三十九度乃至四十一

度に上昇すること多く第三乃至第五日より下降し八日乃至十二日で全く解熱する。輕症にては一二日間三十八度前後の發熱があるだけの事あり重症では高熱が長く稽留することがある。脈搏は體溫に比して多いのが普通である。時には體溫比較的低く脈搏の非常に多いことがある。時には發熱と同時に嘔吐痙攣を起し非常に重篤な一般症狀を呈することがある。一般には食慾缺損、倦惰、不安咽頭痛を訴ふ。咽頭粘膜は暗赤色を呈し扁桃腺發赤腫張し屢々帶黃白色の斑點が認められる。口狹炎と共に兩側顎下淋巴腺腫張し壓痛を伴ふ。舌は初め厚き苔を被るも三四日後には全く剝脫して鮮紅色を呈し乳頭著しく隆起し覆盃子狀或は猫舌狀となる。

(三)落屑期。多くは第二週時には第三或は第四週になつて皮膚の落屑が始まる。此の落屑は特有で先づ毛囊の尖端に點狀に始まり次で膜狀に剝離する。顏面では小鱗片狀頸部軀幹では膜狀に落屑し手掌足蹠では殊に厚く大きく剝離し時に手形足形のまゝ手袋狀に剝脫することがある。落屑の完結するのは五週以後で時には六七週間もかゝることがある。

合併症として最も恐るべきは壞疽性扁桃腺炎で敗血膿毒症を起して斃れる事が多い。其他淋巴腺炎、頸圍蜂窠織炎、關節炎、中耳炎等を起すことが屢々ある。

續發症。猩紅熱は以上の經過を以て治癒するか一旦解熱し落屑期に入つた後往々一定時期卽第十二病日遲きは第六週、最も多く第三週の終り或は第四週の始めに腎臟炎、淋巴腺炎、何等他覺的症狀なき發熱、再發、心內膜炎、多形性發疹等を起すことがある。

本病は我國內地のものは重症は少いが朝鮮滿洲に於ては非常に重症のものが多い。

豫防法としては咽頭が病毒侵入門戸である故に口腔の衞生を重ずべく患者に接近せぬ樣注意し患者は少くとも六週間隔離し家族に本病發生したる場合には同棲したるものは二週間登校を禁ずべく患者の觸れた器物は嚴重に消毒することを要す。豫防注射も行はれて居るが其效は未だ明かでない。

九、風疹

風疹の病原體は不明である。傳染は咽頭よりするものと思はれる。傳染力は痲疹の如く强大で春秋に多く流行する良性の發疹性傳染病である。主として幼兒學童が犯される。潛伏期は十五日乃至二十三日で前驅症は缺く事多けれども發疹前一兩日發熱惡寒食慾不振不快感等あることがある。潛伏期の末期から身體各部の淋巴腺殊に後頭部淋巴腺が小豆大乃至豌豆大に腫張することが多く此れによつて他の發疹性傳染病と鑑別される。發疹は痲疹又は猩紅熱の樣であるが多くは散在性で痲疹と猩紅熱との中間の樣な皮疹である。其色は淡紅色で後に色素の沈着又は落屑を起さない。典型的の皮疹は略同大圓形で周圍に貧血性の暈輪を有して居る。發疹と同時に熱發することが多いが發熱しないこともある。又發疹の初めに三十九度位の熱が一時出て間もなく解熱することもある。發疹は三四日で消褪し體溫も三日以內に平溫に復する。結膜炎、咽頭炎鼻加答兒等のあることもあるが極めて輕微で速に治癒する。

本病は經過も短く良性な傳染病で豫防治療の要なき程のものであるがたゞ痲疹猩紅熱との鑑別を必要とするので重要である。